

因子分析による看護学生の老人像に関する研究

松岡, 緑
九州大学医療技術短期大学部

西田, 眞寿美
九州大学医療技術短期大学部

関, 文恭
九州大学医療技術短期大学部

<https://doi.org/10.15017/121>

出版情報 : 九州大学医療技術短期大学部紀要. 8, pp.35-43, 1981-03-25. 九州大学医療技術短期大学部
バージョン :
権利関係 :

因子分析による看護学生の老人像に関する研究

松岡 緑 西田真寿美 関 文恭

A Study on Images of the Aged Held by Nursing
Students on the Basis of Factor Analysis

Midori Matsuoka Masumi Nishida Fumiyasu Seki

はじめに

核家族化が進んでいる今日、老人と同居することが少ない現代の若者はどのように老人を捉らえているのであろうか。高齢化社会が近い将来到来することは、人口構成比によっても明らかであり¹⁰⁾、高齢者への医療問題とも密接にかかわってくるであろう。

その点、アメリカにおける老年看護学の体系化、および看護教育への対応はかなり進んでいるが²⁾、わが国の現状は必ずしも満足すべき状況とはいえない。しかし、1978年東京に於ける国際老年学会の開催と軌を同じくして、わが国でも老人看護教育の体系化への新しい動きが始まってきた⁷⁾⁸⁾¹⁶⁾³⁾⁶⁾¹²⁾。

そこで、著者らは老人看護への対応の具体的な方策を求めるための第一段階として、看護学生が老人に対してもっているイメージの因子分析を試みた。同時に老人の特徴を捉らえる評価尺度を作成する際の基礎的データを得ることを目的とした。

対象および方法

1. 調査対象

九州大学医療技術短期大学部看護学科1年(69名)、2年(69名)、3年(71名)、計209名(すべて女子)を対象とした。これら看護学生のうち老人との同居経験者(現在同居九州大学医療技術短期大学部

しているものと限らず、過去に同居したことがあるものを含む)106名、非同居者103名であった。

2. 調査方法

看護学科1年生は、成人看護概論の授業で老年期の特徴及び老人を題材にした小説(有吉佐和子著、「恍惚の人」、深沢七郎著、「楠山節考」他等)を読み、グループ・ディスカッションと全体討議を行った。これより3週間を経過した時点(1980年2月)でアンケート調査を実施した。

看護学科2年生と3年生は、すでに1年生の時点で成人看護概論の授業・その他関連諸科目で老年期の特徴を学習している。そこで、それぞれ他の科目の授業時に74項目からなるアンケート(資料参照)に回答を求めた。

老人の特徴を身体的、心理的、社会的な観点から捉らえることを考慮して質問項目を作成した。質問項目は身体的特徴13項目、心理的特徴24項目、社会的特徴25項目、その他12項目である。

各質問項目には、最も否定的な傾向の反応に1点、最も肯定的な反応に5点を与えて尺度化し、SD法(Semantic Differential)¹⁵⁾を用いて測定した。

以上のデータから相関行列を算出し、主成分の分析を実施し、バリマックス回転(4因子解)を行った。数値計算には、九州大学大型計算機センター Facom M-190 を使用し、SPSS¹¹⁾により計算処理を行った。

結果および考察

バリマックス回転後の結果の一部を表1、表2、表3に示した。因子負荷量.500以上の高い負荷量をゴチック体で示し、これを解釈基準とした。

1. 同居学生のイメージ(表1)

まず、老人と同居した経験のある学生がもっているイメージの因子分析結果と解釈を試みる。

表1によれば、高い因子負荷量をもつ項目は、第I因子30項目、第II因子5項目、第III因子4項目、第IV因子2項目であった。全分散に対する各因子の寄与率は、第I因子25.0%、第II因子8.8%、第III因子5.0%、第IV因子4.5%であり、第I因子から第IV因子で占める寄与率は43.3%であった。

第I因子に高く負荷した項目は、「迷惑」「軽蔑」「憎しみ」「いじめる」「恩しらず」「険悪」「傲慢」「浅い」「信頼できない」「恥しらず」「人生の反面教師」……等の30項目であった。これらの項目は、老人の社会的、心理的特徴を示す因子である。学生は老人を迷惑な存在として捉え、かつ暗く自己中心的性格を感じとっていると解釈される。

第II因子に高く負荷した項目は、「はげ頭」「しわ」「よぼよぼ」「鈍い動作」「物忘れ」の5項目であった。これらの項目は、老人の身体的特徴を示す因子である。老人に対して学生は肉体的な衰退を特徴的に捉らえているといえよう。

第III因子で、高い負荷量を示した項目は「過去の経験を重んじる」「不適応」「固定的」「保守的」の4項目であった。これらは老人に対する総合評価の因子であり、学生は老人に、固定的で保守的かつ不活発なイメージを抱いていると解釈できよう。

第IV因子に高く負荷する項目数は少なく、かつ寄与率も4.5%なので残余の因子として解釈しないことにした。

2. 非同居学生のイメージ(表2)

次に、老人と同居した経験をもたない学生がもっているイメージを解析してみると、表2

のごとく、高い負荷量をもつ項目は、第I因子14項目、第II因子6項目、第III因子10項目、第IV因子6項目であった。全分散に対する各因子の寄与率は第I因子22.8%、第II因子7.8%、第III因子5.3%、第IV因子4.8%であり、第I因子から第IV因子で占める寄与率は40.7%であった。

第I因子では、「迷惑」「軽蔑」「憎しみ」「冷淡」「敗北者」「悪い」「厄介者」……等14項目が高い負荷を示した。これらは老人の社会的特徴を示す因子である。学生にとって老人は迷惑な存在であり、軽蔑していると解釈されよう。

第II因子に、高く負荷した項目は、「依存性」「孤独」「不安・恐怖」「無気力」「甘えが強い」「世話がかかる」の6項目であった。これらは老人に対する総合評価の因子である。学生は孤独で依存性の強い人間像を老人にみているといえよう。

第III因子で高い負荷量を示したのは、「僻みっぽい」「愚痴っぽい」「薄汚い」「疑い深い」「険悪」等10項目であった。これらの項目は老人の心理的特徴を示す因子である。老人は暗くかつ僻みややすい性格と学生は捉らえていると解釈されよう。

第IV因子では、「鈍い動作」「物忘れ」「しわ」「老眼」「腰がまがる」「白髪」の6項目が高い負荷量を示した。これらの項目は老人の身体的特徴を示す因子である。学生は老人に対して、肉体的な衰えを象徴的にみているといえよう。

3. 同居学生と非同居学生のイメージの比較(表3)

同居学生と非同居学生のイメージ比較を表3に示した。非同居学生では、老人の社会的特徴(第I因子)と心理的特徴(第III因子)とがはっきり分かれている。これに対して、同居の経験のある学生では第I因子において老人の社会的特徴と心理的特徴が混じり合い連続性をもっていることがわかる。

このことは、非同居と同居の学生の間で老人の捉らえ方に差があるとみられる。すなわち、

非同居の学生は、老人の特徴を記述された参考文献¹⁾⁵⁾¹³⁾どおり紋切型に「身体的」「心理的」「社会的」特徴として観念的に分離して捉らえていると考えられる。これに対し、同居の経験のある学生は、老人に対して感情的・実感的な捉らえ方をしており、特徴を「心理的」「社会的」と分離せずに一体化したものとして捉らえていると考えられる。

全般的に、学生は老人を迷惑な存在として軽蔑し、また、暗くかつ自己中心的な性格をもつ者として捉らえているが、身体的には衰退しているという理解が足りないといえよう。

従来の文献¹⁾⁶⁾⁹⁾¹³⁾¹⁴⁾では、老人の特徴を「身体的」「心理的」「社会的」の三因子からのみ捉らえていたが、今回の調査で以上の三因子に加えて「総合評価」という因子が見い出された。

以上の結果をもとに、今後の老人看護もしくは教育における指針に寄与せしめる方策を二・三考察してみると次のようである。

- ① 老人は身体的に衰え脆い者であることを充分認識させ、その対処の仕方を実践的に教育する必要がある。
- ② 老人を社会的に厄介な存在として受けとめている傾向があるので、老人の役割の位置づけなどで社会的に再評価するよう心がけなくてはならない。
- ③ 教育の場において老人に関する文献を利用する際は、上記2項のことを留意しつつ、個定的なイメージまたは既成概念をもって、老人を捉らえないよう補足していく必要がある。

要 約

九州大学医療技術短期大学部の看護学生(女子)209名を対象として、老人に対するイメージを調査した。

主な結果は次のようであった。

1. 従来の文献による老人の特徴は「身体的」「心理的」「社会的」という三因子のみで捉らえられていたが、今回の調査で上記の三因子に

加えて「総合評価」という因子が見い出された。

2. 老人との同居経験をもつ学生と非同居の学生との間には、老人に対するイメージの差異がみられた。すなわち、非同居の学生は、参考文献に記述された型通りの分類「身体的」「心理的」「社会的」な特徴そのままのイメージを抱いていた。これに対して、同居経験を有する学生のそれは、「社会的」と「心理的」が混合連続して表われており、感情的—実感的なイメージを抱いていた。

文 献

- 1) 藤田拓男：成人の特徴とその理解，沖中重雄編：成人看護学総論Ⅰ，最新看護学全書，3-103，メヂカルフレンド社，東京，1979.
- 2) Gunter, L. M. and Miller, J. C.: Toward a Nursing Gerontology, Nursing Research 26(3): 208-221, 1977.
- 3) 長谷川和夫：心理社会的アプローチと老人看護学，看護展望，4(2): 107-116, 1979.
- 4) 長谷川和夫，那須宗一：老年学，岩崎学術出版社，東京，1976.
- 5) 平山宗宏編：年齢と健康，講座現代と健康。大修館書店，東京，1977.
- 6) 鎌田ケイ子：老人看護と看護教育，看護，31(5): 70-77, 1979.
- 7) 賀集竹子，鎌田ケイ子：高齢化社会における老人看護の課題，看護技術，23(14): 83-92, 1977.
- 8) 勝沼英宇：老人看護教育の体系化と将来への展望，臨床看護，4(14): 2016-2023, 1978.
- 9) 金子光，小林富美栄，大塚寛子編：成人看護学Ⅰ，系統看護学講座，21-37，医学書院，東京，1979.
- 10) 厚生統計協会：国民衛生の動向，厚生指標，26(9), 1979.
- 11) 三宅一郎，山本嘉一郎：SPSS統計パッケージⅡ解析編，東洋経済新報社，1977，
- 12) 日本看護協会編，老人の健康と看護活動，

因子分析による看護学生の老人像に関する研究

- 昭和54年版 看護白書, 233-262, 日本看護協会出版会, 1980.
- 13) ロウ, G. R., 西川好夫: 人間性の発達, 316-334 法政大学出版局, 東京, 1979.
- 14) 十二ミヨシ: 老人看護学における学習指導計画の展開, 長尾十三二, 山田里津編: 看護学教育全書Ⅲ, 136-143, 医歯薬出版, 東京, 1976.
- 15) 続有恒, 村上英治編: 質問紙調査, 心理学研究法9, 東大出版会, 東京, 1975.
- 16) 吉川政己: 老年学の新しい体系 — 第11回国際老年学会議の成果から, 看護展望, 4(2), 97-106, 1979.

表 1. Varimax 回転後 (4 因子解) の因子負荷量 : 同居群 (N = 103)

項 目	因 子 負 荷 量				h ²
	I	II	III	IV	
68 迷 感	.744	-.090	.068	.075	.572
67 軽 蔑	.724	-.014	.002	.238	.582
70 憎 し み	.718	-.062	.041	.035	.522
71 苛 め る	.693	-.013	-.142	.119	.515
52 恩 し ら ず	.688	-.253	.089	-.022	.546
69 陰 悪	.687	.085	.089	.185	.522
25 傲 慢	.671	.215	.242	-.224	.606
75 浅 い	.657	-.153	-.023	-.101	.466
72 信 頼 でき ない	.652	-.115	.249	.058	.505
28 恥 知 ら ず	.637	.206	.193	.007	.486
73 悪 い	.636	-.025	.166	-.019	.434
51 ぶ し つ け	.629	.119	.076	.313	.515
63 人 生 の 反 面 教 師	.629	.043	-.042	.060	.403
65 敗 北 者	.617	.031	-.272	.344	.575
21 疑 い 深 い	.617	-.008	.387	-.038	.533
64 無 知	.616	-.022	-.058	.291	.469
17 意 地 悪	.614	.273	.208	-.022	.496
61 冷 淡	.612	.273	.208	-.022	.495
37 陰 険	.603	.234	.308	.080	.521
59 役 立 た ず	.596	.011	.045	.444	.556
50 だ ら し ない	.591	.262	.121	.456	.642
24 自 己 中 心 的	.588	.097	.479	.000	.584
19 僻 み っ ぽ い	.568	.243	.331	-.038	.493
33 恩 せ が ま し い	.553	.250	.364	-.097	.510
74 き び し い	.532	.086	.063	-.087	.302
29 我 が 儘	.527	.169	.276	.059	.386
30 こ せ こ せ	.526	.285	.207	.133	.419
18 厭 が ら せ	.526	.334	.252	.065	.457
22 怒 り っ ぽ い	.526	.177	.347	-.190	.465
20 頑 固	.501	.278	.263	.053	.400
6 は げ 頭	-.009	.616	-.016	.066	.384
4 し わ	-.098	.610	-.021	-.032	.383
13 よ ば よ ば	.157	.586	.055	.266	.442
10 鈍 い 動 作	.109	.583	.108	-.014	.364
11 物 忘 れ	.046	.549	.221	-.020	.353
48 過 去 の 経 験 を 重 ん じ る	-.153	.239	.683	.174	.579
46 不 適 応	.247	.162	.583	.223	.478
77 固 定 的	.095	.140	.520	-.061	.303
47 保 守 的	-.075	.189	.510	.211	.346
60 哀 れ	.172	.005	.199	.596	.425
45 無 気 力	.055	.109	.379	.549	.461
因 子 分 散	18.482	6.527	3.678	3.349	32.036
寄 与 率 (%)	25.0	8.8	5.0	4.5	43.3

因子分析による看護学生の老人像に関する研究

表2 Varimax 回転後(4因子解)の因子負荷量:非同居群(N=106)

項 目	因 子 負 荷 量				h ²
	I	II	III	IV	
68 迷 惑	.809	.062	.146	.146	.701
67 軽 蔑	.784	.031	.174	.020	.647
69 陰 患	.709	.186	.216	.158	.610
70 憎 し み	.696	.240	.177	.138	.593
61 冷 淡	.686	-.128	.149	.035	.510
65 敗 北 者	.666	.089	-.016	-.055	.455
73 患 い	.661	.421	.204	.114	.670
57 厄 介 者	.632	.070	.291	.100	.499
71 苛 め る	.629	.228	.090	.033	.457
72 信 頼 でき ない	.629	.151	.310	.048	.517
59 役 立 た ず	.623	.248	.191	.115	.500
63 人 生 の 反 面 教 師	.615	-.072	.046	-.137	.404
75 浅 い	.565	.211	.055	.060	.371
76 単 純	.522	-.161	-.000	.113	.311
44 依 存 性	.310	.606	.116	.312	.575
54 孤 独	.230	.588	.142	.005	.419
39 不 安 ・ 恐 怖	.213	.569	.107	.008	.381
45 無 気 力	.201	.543	.156	.018	.360
43 甘 え が 強 い	.320	.532	.059	.184	.423
58 世 話 が か か る	.482	.519	.094	.189	.546
19 僻 み っ ぽ い	-.008	.095	.640	.240	.477
23 愚 痴 っ ぽ い	-.081	.304	.617	-.012	.481
14 薄 汚 な い	.157	-.044	.600	.313	.485
21 疑 い 深 い	-.000	.048	.594	.216	.403
37 陰 険	.357	.180	.592	.100	.521
24 自 己 中 心 的	.199	.391	.546	.050	.493
18 厭 が ら せ	.254	.120	.525	.136	.374
25 傲 慢	.306	.309	.506	-.019	.446
20 頑 固	-.016	.299	.505	.123	.360
17 意 地 悪	.262	.149	.503	.142	.365
10 鈍 い 動 作	.091	-.015	.118	.722	.544
11 物 忘 れ	.004	.236	.254	.631	.520
4 し わ	.023	.022	-.034	.609	.374
7 老 眼	.017	.108	-.001	.551	.316
9 腰 が ま が る	.002	.146	.228	.544	.369
5 白 髪	.034	-.044	.036	.534	.290
因 子 分 散	16.873	5.784	3.943	3.560	30.160
寄 与 率 (%)	22.8	7.8	5.3	4.8	40.7

表3. 同居群と非同居群の因子構造の比較

項	目	同 居	非 同 居
4	し わ	第Ⅱ因子 [.610 .583 .549 .616 .586]	第Ⅳ因子 [.609 .722 .631 .544 .534 .551]
10	鈍 い 動 作		
11	物 忘 れ		
6	は げ 頭		
13	よ ぼ よ ぼ		
9	腰 が ま が る	第Ⅰ因子 [.614 .526 .568 .501 .617 .588 .671 .603 .527 .553 .526 .637 .526 .591 .629 .596 .612 .629 .617 .724 .744 .687 .718 .693 .652 .636 .657 .688 .616 .532]	第Ⅲ因子 [.600 .617 .503 .525 .640 .505 .594 .546 .506 .592]
5	白 髪		
7	老 眼		
14	薄 汚 な い		
23	愚 痴 っ ぽ い		
17	意 地 悪 い		
18	厭 が ら せ い		
19	僻 み っ ぽ い		
20	頑 固 い		
21	疑 い 深 い		
24	自 己 中 心 的		
25	傲 慢		
37	陰 険		
29	我 が 儘		
33	恩 き せ が ま し い		
22	怒 り っ ぽ い		
28	恥 し ら ず		
30	こ せ こ せ		
50	だ ら し な い		
51	ぶ し つ け		
59	役 立 た ず	第Ⅰ因子 [.623 .686 .615 .666 .784 .809 .709 .696 .629 .661 .565 .632 .522]	
61	冷 淡		
63	人 生 の 反 面 教 師		
65	敗 北 者		
67	軽 蔑		
68	迷 惑		
69	険 患		
70	憎 し み		
71	苛 め る		
72	信 頼 で き な い		
73	愚 痴 な い		
75	浅 い		
52	恩 し ら ず		
64	無 知		
74	き び し い		
57	厄 介 者		
76	単 純	第Ⅱ因子 [.543 .588 .569 .532 .606 .519]	
60	哀 れ		
45	無 気 力		
54	孤 独		
39	不 安 ・ 恐 怖		
43	甘 え が 強 い		
44	依 存 性		
58	世 話 が か か る		
47	保 守 的		
48	過 去 の 経 験 を 重 ん じ る		
46	不 適 応	第Ⅲ因子 [.510 .683 .583 .520]	
77	固 定 的		

因子分析による看護学生の老人像に関する研究

— 資 料 —

老人に対するイメージ調査

このアンケート調査は、老人看護についての教育の基礎資料となるものです。

みなさまの老人に対するイメージをありのままお答え下さい。次の設問について該当すると思われる答えの番号を○印で囲んで下さい。御協力をお願い致します。

I

1. あなたは看護学科の何年生ですか。

1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生

2. あなたは臨床実習で老人の患者を受け持ったことがありますか。

1. はい 2. いいえ

3. あなたは、おじいさま、またはおばあさまと同居したことがありますか。

1. はい 2. いいえ
 └─何()才 ~ 何()才頃

II 老人のイメージについておたずね致します。

	非	か	ど	か	非	
	常	な	い	な	常	
	に	り	ち	り	に	
			え			
			ら			
			な			
			も			
			い			
16. 弱く脆い	1	2	3	4	5	強く逞しい
17. 意地悪	1	2	3	4	5	親切
18. 厭がらせ	1	2	3	4	5	物分りがよい
19. 僻みっぽい	1	2	3	4	5	素直
20. 頑固	1	2	3	4	5	柔和
21. 疑い深い	1	2	3	4	5	信じやすい
22. 怒りっぽい	1	2	3	4	5	我慢強い
23. 愚痴っぽい	1	2	3	4	5	淡(あっさり)
24. 自己中心的	1	2	3	4	5	思いやり
25. 傲慢	1	2	3	4	5	控え目
26. 短気	1	2	3	4	5	気長
27. 厚かましい	1	2	3	4	5	遠慮深い
28. 恥しらず	1	2	3	4	5	折目正しい
29. 我が儘	1	2	3	4	5	従順
30. こせこせ	1	2	3	4	5	穏やか
31. お喋り	1	2	3	4	5	無口
32. くどい	1	2	3	4	5	さっぱり
33. 着せがましい	1	2	3	4	5	さりげない親

	非	か	ど	か	非	
	常	な	い	な	常	
	に	り	ち	り	に	
			え			
			ら			
			な			
			も			
			い			
4. しわ	1	2	3	4	5	張りのある皮
5. 白髪	1	2	3	4	5	黒髪
6. はげ頭	1	2	3	4	5	ふさふさした髪
7. 老眼	1	2	3	4	5	よく見える
8. 耳が遠い	1	2	3	4	5	よく聞える
9. 腰がまがる	1	2	3	4	5	姿勢がよい
10. 鈍い動作	1	2	3	4	5	敏捷
11. 物忘れ	1	2	3	4	5	記憶力がよい
12. 老醜	1	2	3	4	5	枯れた美
13. よぼよぼ	1	2	3	4	5	かくしゃく
14. 薄汚い	1	2	3	4	5	小綺麗
15. 不潔	1	2	3	4	5	清潔

松岡 緑 西田真寿美 関 文恭

	非 常 に	か な り	ど い ち ら え な と を い	か な り	非 常 に	
34. 心配性	1	2	3	4	5	楽 天 家
35. おせっかい	1	2	3	4	5	無 関 心
36. 陰 気	1	2	3	4	5	明 朗
37. 陰 険	1	2	3	4	5	優 し い
38. 悲 観 的	1	2	3	4	5	楽 観 的
39. 不安・恐怖	1	2	3	4	5	安 心
40. 寂 し い	1	2	3	4	5	陽 気
41. 懐古趣味	1	2	3	4	5	新 しいもの 好 き
42. 消 極 的	1	2	3	4	5	積 極 的
43. 甘えが強い	1	2	3	4	5	独 立心が強 い
44. 依 存 性	1	2	3	4	5	自 立 性
45. 無 気 力	1	2	3	4	5	活 力
46. 不 適 応	1	2	3	4	5	順 応
47. 保 守 的	1	2	3	4	5	進 歩 的
48. 過去の経験 を重んじる	1	2	3	4	5	新 しいものを 受 け 入 れ る
49. 見解が狭い	1	2	3	4	5	広 い 視 野
50. だらしない	1	2	3	4	5	律 気 者
51. ぶしつけ	1	2	3	4	5	礼 儀 正 しい
52. 恩 じ ら ず	1	2	3	4	5	義 理 堅 い
53. 疎 外 感	1	2	3	4	5	連 帯 感
54. 孤 独	1	2	3	4	5	仲 間
55. ケ チ	1	2	3	4	5	気 前 が い い

	非 常 に	か な り	ど い ち ら え な と を い	か な り	非 常 に	
56. 貧 乏	1	2	3	4	5	豊 か
57. 厄 介 者	1	2	3	4	5	な く て は な ら ない 人
58. 世話がかか る	1	2	3	4	5	扱 い や す い
59. 役 立 た ず	1	2	3	4	5	役 に 立 つ
60. 哀 れ	1	2	3	4	5	堂 々
61. 冷 淡	1	2	3	4	5	世 話 好 き
62. <small>トラブル・ メーカー (かきませ屋)</small>	1	2	3	4	5	ま と め 役
63. 人生の反面 教師	1	2	3	4	5	人 生 の 先 輩
64. 無 知	1	2	3	4	5	知 恵 者
65. 敗 北 者	1	2	3	4	5	功 労 者
66. 若者への偏 見	1	2	3	4	5	理 解 者
67. 軽 蔑	1	2	3	4	5	尊 敬
68. 迷 惑	1	2	3	4	5	感 謝
69. 嫌 悪	1	2	3	4	5	好 感
70. 憎 し み	1	2	3	4	5	親 し み
71. 苛 め る	1	2	3	4	5	い た わ る
72. 信 頼 できな い	1	2	3	4	5	信 頼 でき る
73. 愚 しい	1	2	3	4	5	良 い
74. き び し い	1	2	3	4	5	や さ し い
75. 浅 い	1	2	3	4	5	深 い
76. 単 純	1	2	3	4	5	複 雑
77. 固 定 的	1	2	3	4	5	流 動 的